「金沢市防災備蓄計画 骨子案」　パブリックコメントでのご意見の概要と金沢市の考え方

1　募集期間
令和５年２月10日（金）～令和５年３月11日（土）
2　募集方法
メール、郵便、ファクシミリ又は窓口へ持参
3　意見
・意見者数　２名
・意見数　　５件

No.	ご意見の概要	金沢市の考え方
1	自助による備蓄 我々防災士会は日ごろから呼びかけている。 最低３日分の食糧・水・医薬品・・・の家庭内備蓄と避難所への避難持参品項目に挙げる。	本市では、「自らの命は自ら守る」という自助の考え方を基本に、家庭内における備蓄について、普段から購入している食料や飲料水等を計画的に使用して、３日分以上、可能であれば１週間分の備蓄を行うよう周知、啓発を行っています。 引き続き、防災講座などあらゆる機会を通して呼びかけてまいります。
2	共助 公民館や体育館などでの備蓄が最大７千人避難してきた場合は対応しきれない。そこで人口（住民・推定観光客数）に対して、どれだけの備蓄をしておくかの目安を明らかにしてほしい。	過去に発生した災害の状況や、他自治体における備蓄計画等を参考に、自助・共助・公助それぞれにおける役割のもと、本市における備蓄のあり方や目標量等について基本的な方針を示してまいります。

3	公助 大桑などでは相当量の備蓄が行われているが、それを運搬する交通機関・道路・空路（ドローンを利用した場合）の問題がある。我々の地区でも災害時の搬送用緊急道路確保をどのようにするかを検討しているところではあるが、これは警察（交通規制）や市と一体になって推進しなければならないと思う。	災害時の交通状況を踏まえ、物資配送の効率化から、本市では各校下地区の拠点避難所へ備蓄品等を配送し、そこから指定避難所へ再配送を行こととしています。 配送にあたっては、緊急輸送道路を使用することから、道路管理者並びに警察と連絡を取り合い進めてまいります。
4	発災後７２時間以内の救助方法・救助体制の確立 公助だけではなく共助できる重機の設置やそのスキルの養成を行う。 雪害による除雪、倒壊家屋の除去等々の住民のスキルアップと安全教育の実施。	本市では、金沢建設業協会並びに金沢建設防災協会と災害時協力協定を締結しており、復旧に必要な建設資機材や労務の提供を受けることとなっています。
5	避難所にクーラーを設置するのは無理だと思うが、扇風機を配備することは出来ないか。 災害はいつ起きるか分からないなかで、冬の時もあるが、夏の時に避難所に何か月も暮らすようなことがあるかもしれない。なるべく過ごしやすくしてほしい。	本市では、避難所となる小中学校等に大型扇風機並びに冷風機をすでに配備しており、避難所における暑さ対策及び感染症対策を行っています。